

SELP Vision 2030 事例紹介

2022.8.30掲載

ボールの再生を通して、 野球選手や球児の想いを紡いでいく

社会福祉法人北海道リハビリ

SELP Vision 2030より、主に実現したチャレンジ

2



4



事業所紹介	
所在地	札幌市豊平区月寒東1条11丁目8-6
法人名	社会福祉法人北海道リハビリ
施設・事業所名	セルプさっぽろ
事業種類	就労継続支援A型・就労継続支援B型・ 就労移行支援・就労定着支援
主たる障害	知的障がい
定員	100人(令和4年4月現在)

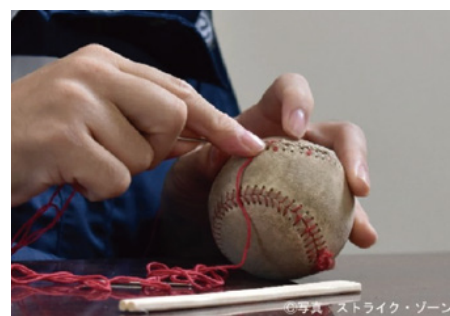
● 野球界初の試みを、道内全体で盛り上げる

インクルージョンボール事業は、糸がほつれて使用できないまま学校や野球チーム等に保管されている硬式野球ボールを回収し、障がい者の就労支援事業所で修繕してリサイクルする取り組みです。

プロ野球球団横浜大洋ホエールズ(現・横浜DeNAベイスターズ)の元投手の発案で京都から広まった活動を参考とし、NPO法人北海道野球協議会が2019年7月より事業をスタートさせました。同協議会は、プロとアマの19団体が加盟しています。北海道日本ハムファイターズと高校や大学、社会人などのアマチュア野球が協働するのは、他にない新しい試みです。

道内の関係団体や企業等も協力し、ボールの回収、輸送、糸や針などの資材提供をしています。各々のリソースを提供し合い、再生利用の仕組みを構築し、“障がい者の就労支援”と“ボールのリサイクル”を両立する社会貢献・スポーツ振興事業として注目されています。

セルプさっぽろは、ボールの修繕・再生作業を担う、札幌市内28事業所の内の一つです。当事業所がメディアの取材を受けた際に北海道日本ハムファイターズの関係者などが来所され、ネットニュースに記事が掲載されました。



障がい者の就労支援ということで
北海道日本ハムファイターズ・稲葉篤紀GM兼SCO

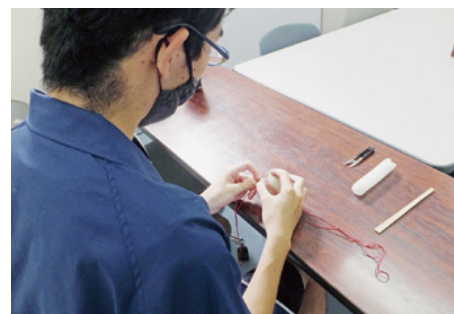
● 一針に心を込めて、障がい者がボールを修繕

この取り組みに参加したきっかけは、インクルージョンボールのパートナーである元気ジョブ(札幌市委託マッチング事業)から2019年3月に声をかけていただいたことです。

ボールを縫う糸は縫製の糸に比べて太く、革の空いた穴へ針を通すには集中力と力が必要とされます。そのため、セल्पさっぽろの従たる事業所『ウェルプラザやまはな』に通う、腕力のある男性利用者4~5人に任せています。事業の主であるクリーニング作業が閑散期を迎えるときにボールの修繕作業をしています。

はじめは2本の糸でボールを編む作業に難しさを感じていましたが、1か月ほど経つとよい変化が見られました。率先してボールを修繕するようになり、集中力を維持して作業に取り組むようになっています。

ボールを1個完成させるためには、平均して1~2時間ほどかかります。年間100個ほどを積極的に繕っていますが、ノルマはなく、自らのペースで作業ができるため、負担に感じることはないようです。ボールの糸のほつれがひどいときは一度ほどいてから縫い直したり、革の穴に糸が通りやすいよう口ウソクの口ウを付けて縫ったりして、手間をかけて作業をしています。



● ボールの再生が、社会参加の嬉しさに繋がる

ボールの修繕工賃の一部は、北海道日本ハムファイターズにサポートをいただいています。修繕費は1球60円でしたが、2022年度は100円に上がりました。これだけの作業では仕事として成立しませんが、修繕したボールは高校野球の練習用として提供されるため、お金に代えられない価値を生み出しています。

野球チームの方から「きれいなボールをありがとう」と喜びの声をいただき、利用者も自ら携わったボールが使われることにやりがいを感じています。クリーニング作業の合間にボールの修繕作業をすることで、気分転換にもなっているようです。

北海道日本ハムファイターズや高校野球などの団体との関わりを意識して、社会に参加する喜びを感じる機会となっています。ひいては「すべての人に健康と福祉を」というSDGsの視点を意識した活動にもつながっています。

今後は、インクルージョンボールへの参加をきっかけに、分野にとらわれず企業や地域のさまざまな組織・団体と連携したいと考えています。より多くの方々と交流することで、障がいのある方への理解が深まり、職業としての自立や社会参加の促進につながっていきたいと思います。